

# 福島第一原発事故とこれから～泊原発を考える

小野 有五

概要：福島第一原発事故から2年以上が過ぎました。新聞やテレビではほとんど報道がありませんが、事故はまだ収束するめどさえたっていない、というのが現実ではないかと思えます。そうした現状を把握しながら、泊原発にどのような危険があるのかを、活断層との関連でお話したいと思います。日本の食糧基地であり、私たちの暮らす北海道を安全な地域にするためにはどうすればいいのか、そのための課題についても、みんなで考えたいと思います。

## 1. 福島第1原発の現状

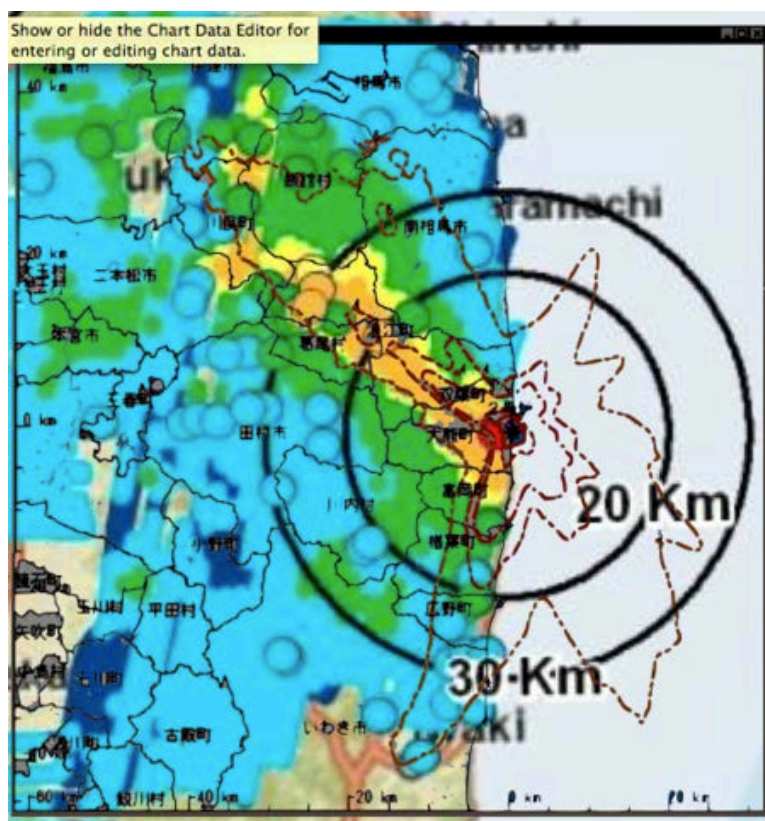


図 1

図1は、SPEEDIというコンピューターシミュレーションによる、福島第一原発からの放射性物質の拡散状況です。政府が2011年3月24日にやっと公表したものです。3,11の事故直後から、SPEEDIのシミュレーションは行われていたにもかかわらず、それは公表されませんでした。文部科学省が120億円もかけてやっていた事業なのです。それに関わった科学者も、SPEEDIその存在を知

っていた科学者も、それを公表することができませんでした。まずこのことが、3.11以後の「科学」というものに、大きな疑問符をつきつけていると思います。メルトダウンし、メルトスルーしてしまった1～3号機では、ひたすら冷却することしかできません。しかし、冷却水を循環させれば、高濃度に汚染された水が大量に発生し、それらは、かならず漏れていきます。海洋に汚染水が出ていることはもちろん、無限に汚染水をタンクにためなければいけないのが現状です。大気中の放射性物質は出続けています。また4号機は、使用済み核燃料の入ったプールが依然として危険な状態にあり、もう1度、大きな地震が来れば、プールが壊れ、使用済み核燃料がむき出しの状態になります。そうなれば、東京は終わりでしょう。これが事故後2年以上たった福島の現実です。

## 2. 泊原発の現状

泊原発で福島第一と同様の事故が起きたら、北海道は、札幌はどうなるのか、それを実感していただきたいと思って、2011年8月につくったのが図2です。この図ではフクシマと北海道の地図を重ねあわせ、回転させて、ちょうど泊原発の位置に福島第一原発がくるようにしています。福島第一と福島市の距離は65Km、泊原発と札幌市が70kmですから、札幌は、だいたい、現在の福島市のような状況になることがわかります。

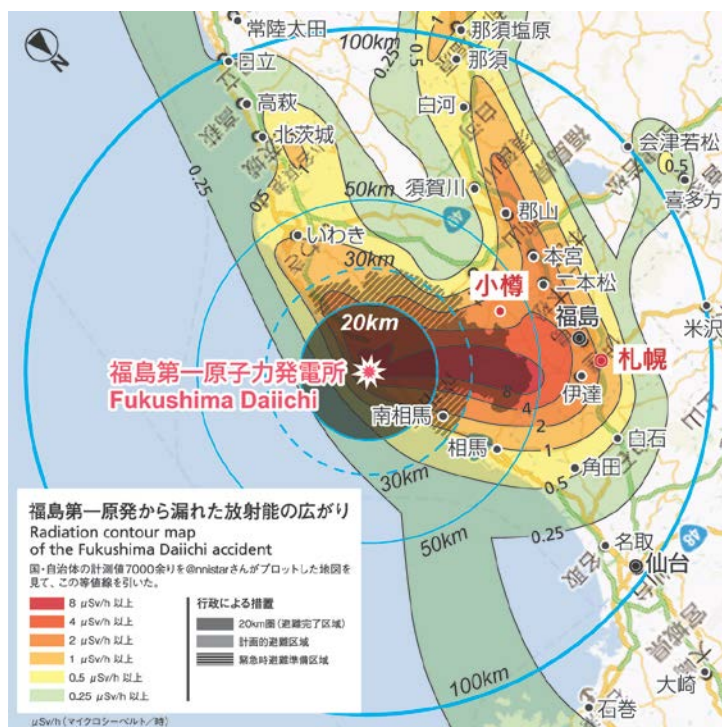


図2

しかし、この図はただ2つを重ねあわせただけですので、ほんとうのことはわかりません。それで、東京の民間のコンサルタントの方につくっていただいたのが図3です。これも、コンピューターシミュレーションですから、北大でも、専門家からじゅうぶんつくれるはずですが、何人かの方をお願いしたのですが、みな断られてしまいました。政府にたてつくようなことはしたくない、というのが、大学の研究者の態度のようです。みんなの税金で雇ってもらっているはずなのに、人間の命や健康を真っ先に考えられないというのが、いまの学問研究のようです。

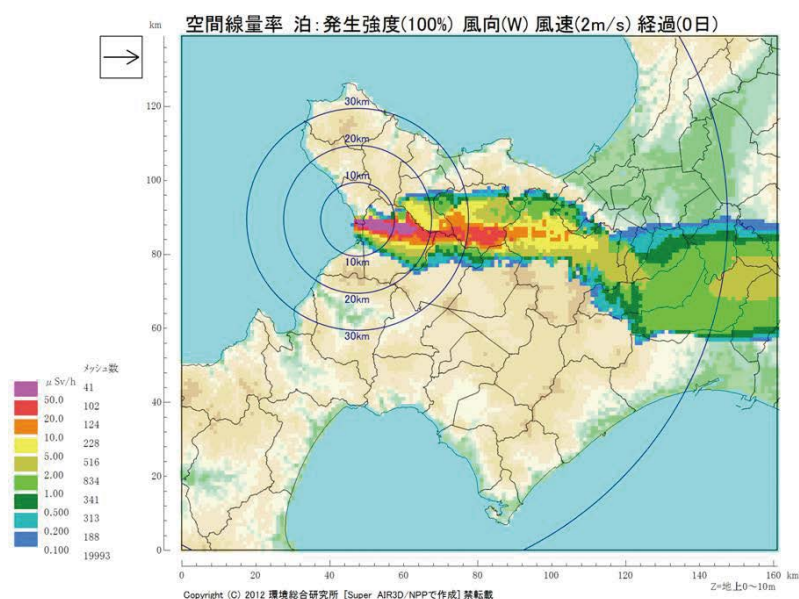


図 3

### 3. 泊原発の廃炉訴訟

私は、2011年7月に「泊原発の廃炉をめざす会」という市民団体を立ち上げ、以来、その共同代表を務めています。2011年11月11日には、札幌地方裁判所に、泊原発の廃炉を求める訴訟を612人の原告とともに起こしました。原告は2012年にはさらに増え、現在、1232人の大原告団になっています。この講義では、私たちがなぜ、泊原発の1日も早い廃炉を求めているのか、その理由をお話したいと思います。図4に示したように、日本海側のプレート境界があることがわかったのはまだ20年前にすぎないこと、そこには図4の左側や図5に示すような複雑な海底地形があり、たくさんの活断層が見出されることがその理由です。泊原発周辺では、いつ大地震や巨大津波が起きてもおかしくない状況なのです。



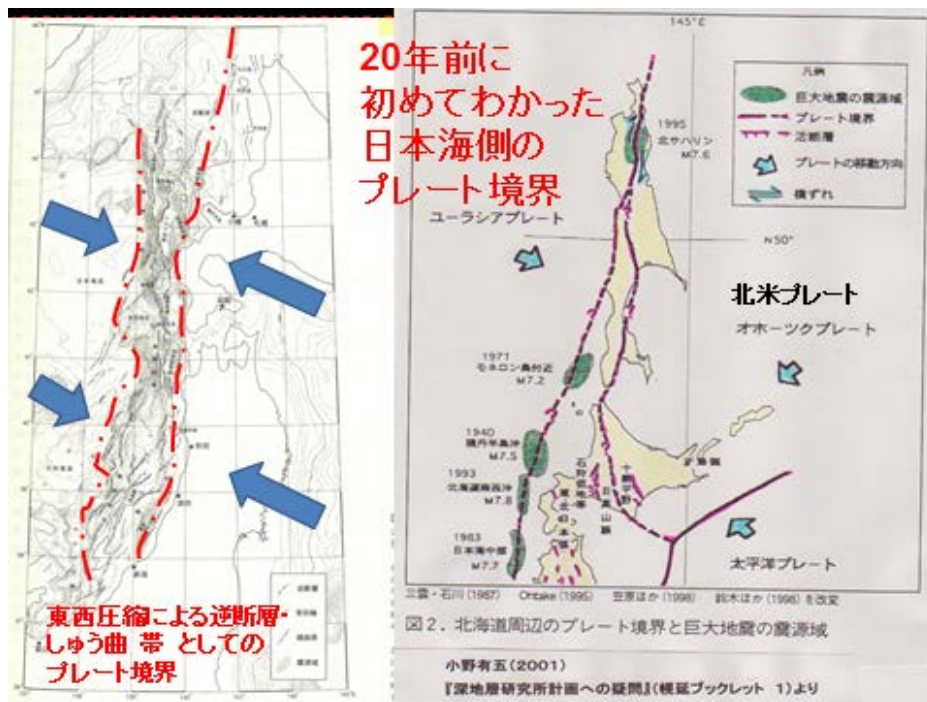


図 4

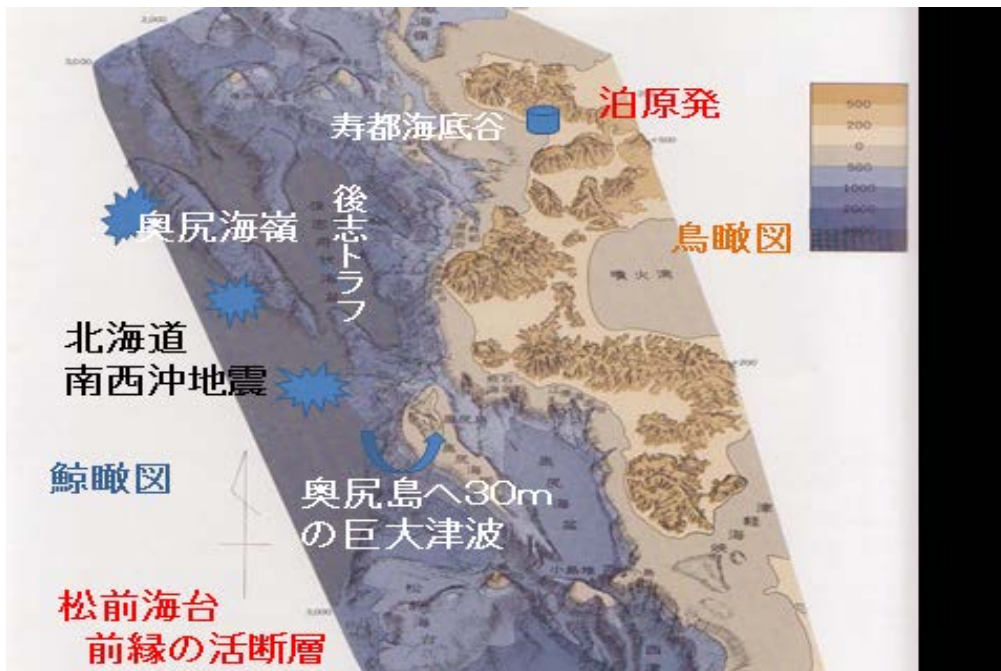


図 5